

令和元年8月9日14時00分
資料配布 近畿地方整備局

大阪湾港湾の基本構想のフォローアップを行いました ～港湾の中長期政策「PORT2030」等をふまえて～

概ね10年後を想定して策定しました「大阪湾港湾の基本構想～スマートベイの実現を目指して～」(平成27年12月、大阪湾港湾連携推進協議会)について、フォローアップを行いましたのでお知らせします。

1. フォローアップの背景

概ね10年後を想定して、平成27年12月に「大阪湾港湾の基本構想」が策定されてから3年超が経過し、この間にも港湾を取り巻く状況は時々刻々と変化し、国土交通省港湾局より、港湾の中長期政策「PORT2030」(平成30年7月)の策定、それをふまえた「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」の見直し(令和元年6月27日告示)がなされました。

このような状況の変化に対応すべく「大阪湾港湾の基本構想～スマートベイの実現を目指して～」のフォローアップを行いました。

2. フォローアップの内容

策定時の目指すべき方向性のキーワード「持続的発展を支える(Sustainable)」「国際市場と繋がる(Market)」「最先端をリードする(Advance)」「成熟した地域社会を切り拓く(Region)」「伝統を活かし育む(Tradition)」をそのままに、具体的施策の深化を図りました。詳細は近畿地方整備局港湾空港部のホームページに掲載いたします。

<http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/information/smartbay.html>

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、
神戸海運記者クラブ、神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ、港湾新聞社、
日刊海事通信社、海事プレス、港湾空港タイムス

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部

港湾計画課 Tel : 078-391-8361

課長 松本 伸春 (まつもと のぶはる)

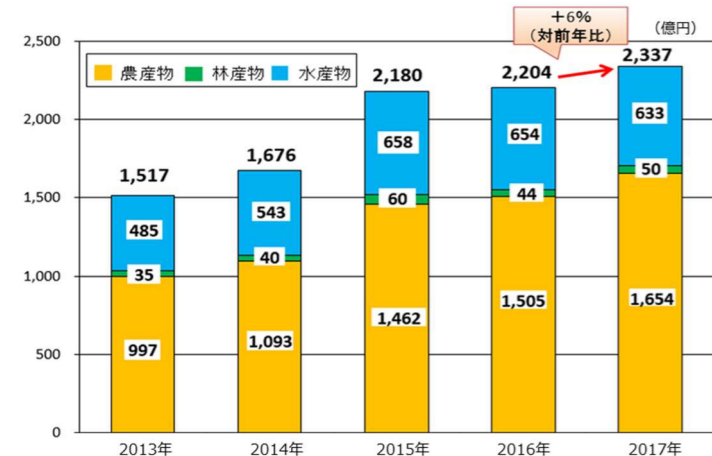
課長補佐 中川 郁美 (なかがわ いくみ)

平成 27 年に「大阪湾港湾の基本構想」が概ね 10 年後を想定して策定されてから 3 年超が経過した。この間にも港湾を取り巻く状況は時々刻々と変化してきており、平成 30 年 7 月には港湾の中長期政策「PORT2030」（国土交通省港湾局）が策定され、令和元年 6 月 27 日には「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」が見直され告示された。このような状況の変化に対応すべく、今回、「大阪湾港湾の基本構想」のフォローアップを行った。

「大阪湾港湾の基本構想」策定後 近年の主な経済社会情勢の変化

近畿圏からの農水産品輸出の増加 等、 地域ならではの価値ある貨物を支える物流の必要性

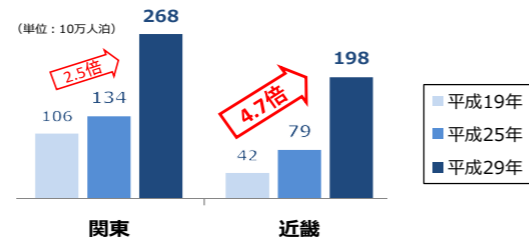
- 2015 年以降輸出額が急伸する農水産品（生鮮品）に対するコールドチェーン、高まる越境 EC 需要を支える高機能物流倉庫の促進など、近畿ならではの貨物の価値を支える物流網構築の必要性が生じている。



(近畿農政局「近畿管内における農林水産物・食品の輸出の状況と取組(H30.9)」)

近畿圏への訪日観光客数の増加と、 よりラグジュアリーな観光需要の増加

- 近畿圏への訪日宿泊観光客数は近年大幅に増加。



(観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成)

- 海外富裕層の高級クルーザー「メガヨット」寄港に対して、国内受入マリーナが限定されている。



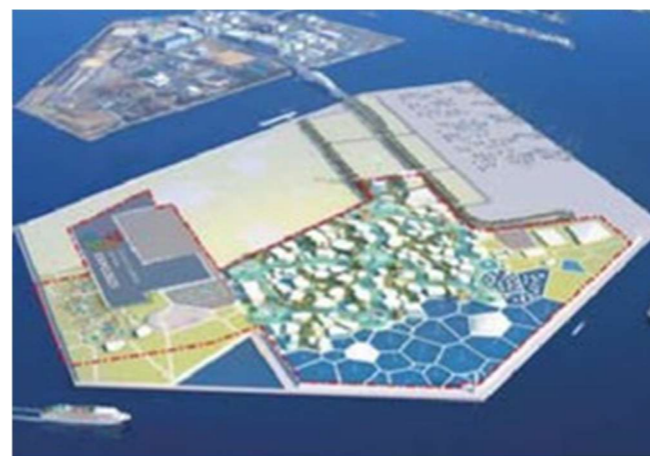
全長: 119m 5,959 G.T. 写真提供: 船社
(国土交通省「スーパーヨットの受入拡大に向けた取組の推進」プレスリリース(2019年3月6日付)添付資料より)

乗客年	全長	滞在期間	国内支出実績
2013	113.14m	17日	¥27,500,000
2014	28.26m	10日	¥5,700,000
	40.22m	10日	¥15,230,000
2015	44.94m	10日	¥17,525,000
	54.45m	3日	¥3,428,260
	81.50m	30日	¥45,000,000
2016	27.00m	10日	¥2,500,000
	54.00m	3日	¥12,000,000
	54.00m	22日	¥25,000,000

資料提供: (一社)スーパーヨット振興会・日本

大阪湾夢洲地区における国際観光拠点 (IR 等) の形成 2025 年日本万国博覧会 (大阪・関西万博) 開催決定

- 大阪湾夢洲地区は、国際物流拠点と共存可能な国際観光拠点の形成、また 2025 年大阪・関西万博開催決定による候補地としての整備が見込まれ、整備中・開催期間中の混雑やアクセス確保への対応を検討する必要性が拡大。



(経済産業省「2025 年国際博覧会検討会報告書 概要」)

2018 年 9 月の台風 21 号による高潮被害の発生

- 台風による高潮の浸水被害が発生。陸上電源設備の浸水、コンテナ倒壊等の港湾施設への被害に対する対策が急務。



(近畿地方整備局撮影)

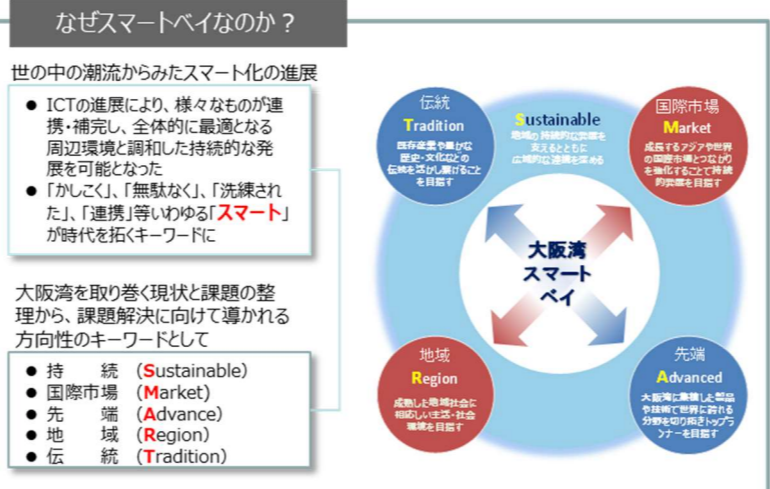
産業・貿易・物流

- 経済活動を支えるためのさらなるインフラの充実**
 - ① アジア広域集貨輸送網の充実とターミナル接続機能のさらなる充実・強化
- 成長著しいアジア諸国とのシームレス化**
 - ① 魅力ある海外市場と結ぶ多方向・多頻度の直行サービスの充実
- 国際標準の港湾サービスの充実による港湾の国際競争力強化**
 - ① AI, IoT, 自動化技術を活用したターミナル生産性向上
 - ② 外航船社アライアンスの再編に対応したふ頭の集約及び再編等
 - ③ 高機能物流施設の立地促進による小口・混載輸送 (Eコマース等) への対応 (シェアリング倉庫等) 及び高付加価値貨物の取扱い (MRO、ノーブルユースによる薬品等) を可能とするロジスティクスセンターの誘致・集積
 - ④ 海外港湾や異業種の情報プラットフォーム等とのデータ連携による物流の「見える化」や貿易、決済の利便性向上
 - ⑤ 大阪湾港湾におけるスマートな港湾整備・運営のノウハウや技術的知見、インフラ等の海外港湾への展開支援
- 貿易構造の変化に適切に対応した施設の高度化**
 - ① 小ロットの農水産品等の輸出促進に向けたロット集約化、出荷調整機能の確保等
- 大阪湾の伝統的産業の持続的な発展への支援**
 - ① バルク貨物等の輸送船舶の大型化に対応した機能強化や、臨海部土地の有効活用
- 成熟社会に即して既存ストックを「賢く使う」**
 - ① ICTの活用によるリアルタイムでのトラック・シャーシの動態把握を通じたオペレーション最適化や、シャーシの共同利用の推進等による輸送効率化
 - ② AIやIoT、自動化技術などの次世代の技術展開に対応した複合一貫輸送ターミナル機能の強化及び充実

文化・交流・暮らし

- クルーズ等の振興にむけた受入環境の向上**
 - ① 瀬戸内海のフェリーの活用、クルーズ船の大型化・高級化、フライ&クルーズ等の多種多様な旅のスタイルへの対応等
 - ② 瀬戸内海、琵琶湖と連携したクルーズ産業振興
 - ③ 広域観光周遊ルートの起終点となるポータル機能の確立
 - ④ 客船会社、訪日外国人旅行者及びクルーズ旅客のニーズや動向の正確な把握・分析の推進
 - ⑤ 災害時における施設利用者への情報提供や代替輸送の確保
- 多様な文化や伝統の次世代継承と、魅力的な地域づくりへの貢献**
 - ① 国際物流拠点と共存可能な国際観光拠点の形成と連携した臨海部へのアクセス改善
 - ② 官民連携による旅客船ターミナルやマリーナ等の賑わい拠点化の促進
- みなどに対する市民の認知度や親しみを深める取組の推進**
 - ① 都市と親水空間のシームレス化及び陸海空をつなぐアトラクション体験の拡充・促進

「大阪湾港湾の基本構想」 フォローアップ



環境・エネルギー

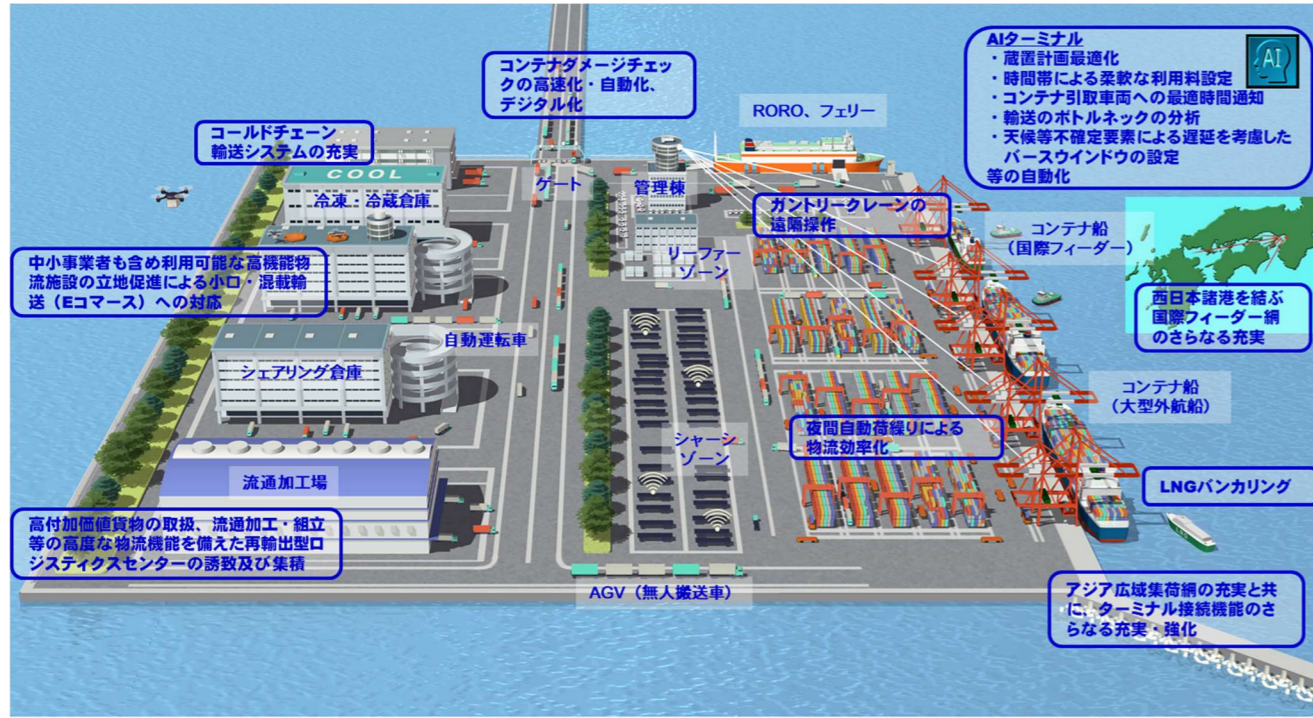
- 安価で安定したエネルギー供給の対応**
 - ① 官民連携によるエネルギー及び資源の輸入拠点となる港湾機能の強化 (水素エネルギーを初めとした、多様なエネルギー源の受入施設の検討及び整備等)
- 世界的な低炭素社会実現の動きに対応するためのICT等の技術の活用**
 - ① 海事分野の環境規制強化に伴う船舶の燃料転換等に対応したLNGバンカリング拠点の形成
- 多様な主体の連携に基づいた海域環境の改善・創生**
 - ① 大阪湾の海底窪地埋め戻し等による継続的な環境の改善及び鉄鋼スラグ等の産業副産物を有効利用したブルーカーボン生態系 (藻場等) の活用による「CO2吸収源対策」の促進
 - ② ヒアリ等の危険・有害な特定外来生物の国内への侵入・定着を防止

安全・安心

- 自然災害に対する地域の安全・安心施策の推進**
 - ① 堤外地における高潮・暴風被害低減対策 (電気系設備の高上げ・止水、コンテナの漂流防止、非常用電源の設置等)
 - ② 大規模災害時における代替輸送経路の確保、復旧・復興の連携・支援の枠組みの構築及び実効性の向上
 - ③ 経験したことがない災害に対しても、地域の災害対応力を高めるため、緊急物資及び復興資材等を背後に供給するための官民の連携・支援の枠組みの構築等 (「大阪湾BCP (案)」及び「港湾BCP」の実効性向上と深化等)
 - ④ IoT等を活用した高度なセンシング技術やドローン等の活用により、被災状況を早期把握・伝達する体制の構築
 - ⑤ 災害時等の機動的な輸送手段としての機能発揮に向けた内航フェリー・RORO船の運航事業者の協力による施設の共同利用や貨物の共同輸送に向けた取組の推進
- 成熟社会に即して既存ストックを「賢く使う」**
 - ① ICTを活用した測量・施工等、「i-Construction」の推進による港湾建設分野の生産性向上並びに働き方改革を通じた担い手の確保・育成

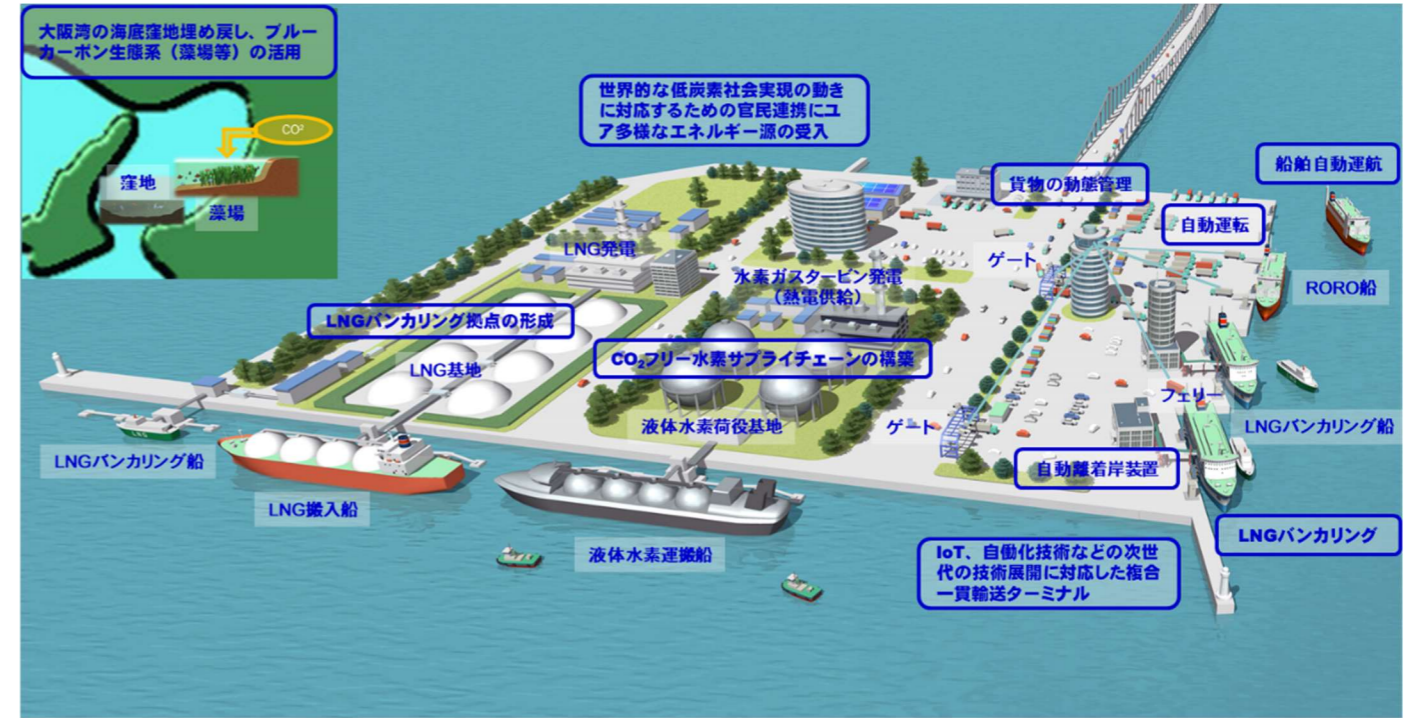
Advanced Technology and Society 最先端をリードする港
産業・貿易・物流

- 情報通信技術（ICT）の積極的な活用により、我が国を代表する港湾としてターミナルの生産性を向上させるとともに、物流に関連する情報の一元化によりユーザーの港湾利用の利便性を確保する。
- 多様な航路サービスを有し世界中とつながるとともに、背後圏との陸・海のアクセス性も強化する。更に、物流面での高付加価値化を図り、大阪湾の経済発展に貢献する。



Market Globalization+Regional Cultivation 世界とつながる港+成熟した地域社会を切り拓く港
環境・エネルギー

- 大阪湾の持続的な発展を支えるため、新たなエネルギーの供給拠点としての役割を担う。
- 環境に配慮した先進的な試みを実施することで、世界的な潮流である環境保全に貢献する。
- AIやIoT、自動化技術などの次世代の技術展開に対応した複合一貫輸送ターミナル機能の強化及び拡充。



Market Globalization+Traditional Industry and Culture 世界とつながる港+伝統を活かし育む港
文化・交流・暮らし

- 大阪湾の特性を活かし、国内外の双方の人々にとって魅力的で多様なツーリズムメニューを提供するとともに、ツーリズムメニューを下支えするハード面での整備も推進する。
- 臨海部の産業空間の再編を図るとともに、それら産業の港湾物流の効率化に資する施設を継続的に整備する。



Sustainable Development 持続的な発展を支える港
安全・安心

- 近年頻発している自然災害による被害を軽減し、背後圏を護るためのハード施設の整備を進める。加えてICT技術を活用し、災害情報や被災状況を一元的に管理し、発災時におけるスピーディーかつ効率的な救援活動を支援する。
- 人口減少社会、財政面での逼迫に直面する中において、ICTを活用した維持管理分野・港湾建設分野における生産性向上を図る。

